

平成 14 年度号 No.22 平成 14.5.20 発行  
〒 275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37  
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会  
TEL/FAX 047-472-1160  
URL <http://www.dosokai.org>  
E-mail [toho@dosokai.org](mailto:toho@dosokai.org)

## 目次

- 同窓会総会開催案内 ..... 1
- 会長あいさつ ..... 2
- 学校長あいさつ ..... 3
- 同窓会この一年 ..... 4
- 特別寄稿 ..... 6
- 同窓生のページ ..... 8
- 学校の近況 ..... 12
- 退職にあたって ..... 13
- 平成 14 年度入試結果 ..... 14・15
- 新入会員を迎えて ..... 16



題字：創立者 額田 晋先生 書

## 同窓会総会開催案内

日時 平成十四年六月二十二日(土)

受付開始 十五時

総会開始(会場 ライブラリー)

十五時三十分

懇親会スタート(会場 ルーナ)

十六時三十分

会場 ホテル「ザ・マンハッタン」  
幕張新都心

議案 ・平成十三年度事業報告

・十三年度会計報告

・十四年度事業計画案

・十四年度予算案

・その他

学校の近況報告

・東邦中学校・高等学校入学をとりま

く状況

・大学進学状況に関して

・その他

※先生方からご説明を頂きます。ご家族  
同伴の出席可。

懇親会 総会終了後、懇親会を行います。

会費は、正会員五千円、学生会員千円と  
し、平成十四年三月卒業の新会員はご招待

とさせていただきます。また、会員の同伴のご

家族からの会費徴収は致しません。

★出欠の回答は、六月十七日(月)まで  
にご返送ください。FAXでの回答も

受付しています。

TEL・FAX

〇四七―四七二―一六〇

中高創立四十・五十周年を契機に、人の力強く生きる道を教えてくれる著書復刻版発行

建学の精神を象徴する「自然・生命・人間」 学園創設者医学博士 額田 晉 著

中高同窓会長 鮎川 二郎 (七期卒 現千葉商科大学教授)



経済の不況  
スパイラルや  
政界・業界、  
さらに身近な  
生活環境等に  
おいて様々な  
社会的深刻な  
事件が頻発し  
ている中で、

人々の考え方や行動に対するあるべき姿が求められている昨今ですが、会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

母校中高は、平成十四年をもって、それぞれ創立四十・五十周年を迎えるに到りました。そこで、九月には母校の先生方、習志会、同窓会が三位一体で協力して周年記念事業を実施します。また、これを契機に同窓会事業として、学校法人東邦大学をはじめ、母校、同窓各位の更なる発展を祈念し、建学の精神を象徴している『自然・生命・人間』の復刻編集版を発行することとなりましたので、先ずは会員皆様にご案内いたします。

母校創立以来、平成十三年度までの間に学び舎を巣立った同窓生総数は、実に一万六六七三名になりました。この会員数をもって母校の歴史と伝統をそれなりに想い感じる方々が多いかと存じます。母校にはこれまで創立者である額田豊・額田晉両博士の思想と哲学を礎とする

「自然・生命・人間」が建学の精神・教育理念として歴史と光輝ある伝統の中に受け継がれてきています。

額田晉先生は、自らの永い研究教育生活を通して、人生の根本問題にたいする解答を追究され、その模範を纏めた著書『自然・生命・人間』を東邦大学学長就任中(一九六三年、当時七七歳)に出版されました。以来、その著書は多くの人々の目に触れ、「自然の中で生命を大切にしたい」という人生観が語り継がれています。

ここで、著書『自然・生命・人間』で述べられている尊い教えの本質と思われる一部を僭越ながら私なりに読み取らせていただいたままに表してみます。

『今では学校教育が進んでいるから、人々はそれぞれかなり広い学問を身につけている。しかし今日のあらゆる学問、たとえば物理学や化学や、法律や経済学などは人間に理屈や知識を与えるけれども、それ自体は人間の歩むべき道を教えてくれない。(中略)われわれは科学の立場から人間とはどういうものか、どういう所に心をおいて一生を過ごせばよいかということをも一度考え直してみる必要がある。それにはまず自然とは何かということを考察し、それから生命の問題に及ぶのが順序であろう。』という額田晉先生の基本的な考えから始まり、さらに『人間の尊い特徴は真・知・善・愛・美の五つであり、人々が世に生きて力強い人生を送るには、

自然観・生命観・人間観を充分よく会得して、自分も自然の一部分であること、そして自然界には無形の偉大な力が潜在し、自分もその力によって生まれ、その力によって支配されながら存在していることをまず心の中にしっかりとつかみ、大自然の動きに一致して、真・知・善・愛・美の理想の実現に向けて努力しつつ人生の道を歩むより他に道はない。』としたうえで人生探求のあるべき道を詳細に説いています。このことは、人はどうしたら学習意欲や働きがい、生きがいを持つようになるのか、の疑問に直接の解を求める前に「自然・生命・人間」を科学し、「心」となって現れる「考え方」をしっかりとつことである、という教えであると私には受け止められます。

同窓会は、このような一読すれば誰もが感動し、自己を見つめて力強く生きるうえで勇気を与えてくれる名著『自然・生命・人間』の蔵書が残り少ないことを数年前に知り、過年度の同窓会総会でも審議了承のとおり、創立記念を祝う事業として、日本語版と英語版の復刻編集版を発行する計画を進めて参りました。

発行計画は、大学法人野口鉄也理事長のご支援を賜りながら順調に進み、今年度の総会までには完成の予定です。そして創立記念事業においては祝意を表し関係各方面にご披露し、東邦の建学の精神を改めて仰ぐことのできる良き機会とさせていただきます。また、その後は毎年、東邦中高入学生に対して入学祝として寄贈することにしていきます。

以上、本紙面をお借りして、母校の創立以来半世紀の節目に当たる創立記念事業および復刻編集版の発行についてのご案内を申し上げます。同窓会長挨拶に代えさせていただきます。

尚、本年度の同窓会総会は、別掲のご案内の通りです。半世紀に及ぶ母校の懐かしい足跡を語り合いながら楽しく集い合える総会にしたいと存じますので、会員の皆様、ご家族ご同伴で多数ご参加くださるようお願い申し上げます。

## 歴史の節目に思うこと

―「不連続の連続」―

学校長 秋山 尚功



日頃、鮎川会長様はじめ会員の皆様方に多大のご支援を頂き心から感謝申し上げます。

さて今春、

桜前線は異例の速さで北上しました。関東周辺の気温は、観測始まって以来の最高値を記録したとのことです。通常、四季変転のリズムを体で覚え込んでいるだけに、今年はまだに異変でした。身近な現象の変化の奥に自然界の知られざる力を感じ、驚きを新にしました。恒常的な連続の中に不連続の瞬間をみたら、ような思いもあります。創立五十周年を控え、伝統の継承と歴史の発展に思いを重ねているところです。

母校の現状

少子化傾向の続く中で、どの学校も「選ばれる学校づくり」を競う昨今です。このような社会の動向を踏まえ、創立五十周年の節目に更なる前進の契機を求むべく、昨年度から改革に取り組みました。一例を挙げれば、従来一回の中学入試を改め、前期・後期の二回

実施に踏みかりました。前期試験は従来どおり国語・算数・理科・社会の四教科で、募集定員二五〇名に対して志願者数は二、二九三名(約九倍)。後期試験は算数・理科の二教科で、募集定員二〇名に対して志願者数は三三五名(約十七倍)でした。高校入試は従前どおりの実施で、九八名募集に対して志願者数は一、一四三名(約十一倍)でした。今春の入学者は中学校が二七六名、高校が一四四名で、その結果全校在籍生徒数は、中学校が八二二名、高校が一、一四一名で、総計一、九六三名(男女比は中・高とも約六：四)となりました。寮生は中高合わせて二九名です。全員が明るく学校生活を楽しんでいきます。

卒業生の進路状況は、超難関の東大・京大九名、東工大十名、国公立医学部二一名を含め国公立が一三三名。私学は早・慶・上智・理科大が二六〇名などとなっています。概ね例年並の成果をあげたと思えます。

今後とも、平素の授業を重視して学力を増進し、生徒の進路志望の実現に学校を挙げて努力していきたいと考えています。

創立記念事業計画の概要

今年は中学創立四十周年・高校創立五十周年を迎えます。学校・同窓会・習志会の三者

が挙ってこの節目を祝うべく、現在記念事業を計画中です。次にその概要をご紹介します。

### 記念事業

(一) 記念式典 平成十四年九月十四日(土)

十時～十一時三十分

習志野市「習志野文化ホール」

(二) 記念祝賀会 同日

十二時三十分～十四時三十分

千葉市「幕張プリンスホテル」

(三) 記念誌の刊行

(四) 記念講演等 学校行事として計画

### 組織

実行委員会(実行委員長) 学校長、(副委員長) 同窓会長・習志会長

事業委員会(記念式典・記念祝賀会・記念誌刊行委員会)

予算計画

予定総額 約一千万円

創立以来半世紀、同窓会や習志会のご支援のもと、教職員や生徒の努力により、県内私学の優秀な進学校としての地位を築いてきました。「自然・生命・人間の尊重」の建学理念や不断の自己鍛錬、謙虚な自己省察の精神は、世に誇るべき本校教育の基幹です。今日少子化の中で、個に応じた学習等への要請が高まるなど、教育を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。このような中で未来を見据え、引き続き継承すべきものは継承し、改めるべきものは思い切って改めながら、社会の変化に柔軟に対応することが不可欠です。教職員と共に、更なる発展に向けて努力したいと思えます。今後とも宜しくご理解とご支援の程お願い致します。



同窓会のこの一年

同窓会理事 御喜和(十八期生、母校教諭)

同窓会活動の一年を簡単に報告させていただきます。

同窓会総会・懇親会

平成十三年六月十六日、ホテル「ザ・マンハッタン幕張」において、平成十三年度、同窓会総会が行われました。出席者は八十九名。正会員に加え、特別会員である多くの先生方、野口鉄也東邦大学理事長、習志会三役の方々のご参加を得て、近來にない盛会となりました。

総会終了後、会場を宴会場に移して行われた懇親会は、旧交を温め合う場として、また年代を越えて親睦を深める場として、大変楽しく有意義な時間となりました。

十二期生の穴倉勲氏から「同窓生相互の親

平成13年度 東邦中・高等学校同窓会 総会



総会 鮎川会長挨拶



「乾杯」 第八代校長相川勝衛先生



鮎川会長より第十代校長伊藤恒之先生へ記念品贈呈

総会・懇親会



第7期生



第20期生と亀井先生

睦を深める企画を検討してほしい。例えば同窓会主催のゴルフコンペなどはどうか。」という意見が出され、鮎川会長から「前向きに検討したい」という回答がありました。

### 自然・生命・人間の復刻本の発行に向けて

鮎川会長、小澤副会長が中心になり、復刻本の体裁、版權の問題、今後の対策などについて、野口理事長、秋山校長らと綿密な話し合いを重ねてきました。平成十四年五月現在、発行に向け最終的な段階に入っています。周年記念式典日に在校生全員に配布できる予定です。なお、復刻本入手のお問い合わせなどについては同窓会事務局まで。

### 創立周年行事に向けての準備

十一月に創立周年行事実行委員会が発足。

同窓会からは鮎川会長が実施副委員長に、斉木副会長、小澤副会長、御喜が実行委員となりました。記念事業の準備は秋山校長を中心に着々と進んでいます。同窓会執行部もこの大イベントの成功に向け、組織を上げて協

力を重ねています。

### 卒業記念品の贈呈

卒業を祝し、例年通り、ペン型印鑑と「鮎川会長デザインの特製ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。

### 同窓会入会式

三月一日（卒業式の前日）、母校体育館で同窓会入会式が行われました。同窓会を代表して秋元保次理事が激励のスピーチをしました。実業家としての体験に基づいた同氏のスピーチは、卒業生にはとても新鮮だったようです。

### 母校卒業式への参加

三月二日、高校卒業式が挙行され、鮎川同窓会会長が出席。来賓祝辞を述べました。厳粛な中にも若さに満ちたすばらしい卒業式でした。

### 同窓会会員有志による ゴルフコンペの実施



六月の同窓会懇親会の折、話題となったゴルフコンペが、央倉氏のお世話で、十一月二十五日、実施されました。今回は総会参加者を中心とする有志の集まりでしたが、今後は、同窓会活動の定例企画に組み入れ、多くの会員の参加を呼びかけることも今年度の総会で検討する予定です。  
なお、この件に関するお問い合わせは、同窓会事務局まで。

## モラル



学校法人東邦大学理事長  
野口 鉄也

私の医学部学生部長時代『学園だより・第一七九（現TOHONOW）』に、概略、次のような文章を書いた。

『モラル向上期間を終わって…』

医学部自治会は、五月二十一日から六月七日にかけて、学内と学校周辺の違法駐車禁止、学内の美化及び白衣による食堂への出入りの禁止などに主眼を置いた「モラル向上期間」を実施した。モラルとは規則あるいは法律以前の道徳・倫理上の善悪の行動基準、その根底には「自らを厳しく律する」ということがある。諸君の学生生活上の自覚として極めて有意義なことであると思った。この十七日間を経た現在、学生自治会の目標通り学内外の環境が改善され、moralとmorale（集団の共通の目的に向かう士気）の両者が同時に進行し、大きな成果を挙げることが出来た。自治会委員諸君の

## 特別寄稿

努力と学生の協力を評価したい。後日、大学隣接地域に昼間火災が発生した。病院と基礎棟との間の七メートル道路を消防車は現場に疾走し、迅速な消火に当たることが出来た。モラル向上の成果を目の当たりに見ることができた。』

現在、私が執務している部屋は、この道路に面した、本学創立当時の最も古い建物にある。救急車が走る抜けるとき、必ず「モラル向上期間」を思い出す。

休日には必ず本屋とレコード屋（今ではCD）に赴く。音楽は相変わらず銀座山野のお得意さんをしていて。廉価な輸入盤もあり、イタリア盤古楽も寄せられ、便利にしている。自由が丘から日比谷線に乗り銀座に出る。私も停年を過ぎたので、腰掛けても良いだろうが、敢えて健康のために座らないようにしている。カミサンをシルバー・シートに座らせ、何気なく、シルバー・シートの説明を読んでみた。「この席は体のご不自由な方とお年寄りに優先してください。」とある。私の若かりし頃は「全ての席は本来シルバー・シートで、空いているときだけ座り、利用される方が見えたら譲る」という暗黙の了解ができていた。規則以前の善悪の行動基準だった。今は違う。制限が表示されていなければ、なんでも「アリ」。良いことでも悪い事でも規則に無ければ「許される」。

交通安全旬間、歳末助け合い運動など誠に不可思議なものに感じる。多くの人びとは期間が過ぎれば意識は元に戻ってしまう。

星野阪神の「あしなが基金」は一服の清涼剤である。

## 思い出



小室 彬

永久に続く命をもちて茜雲  
燃えつつ消えぬ北浦の果て

北浦は私の故郷の小さな湖です。西の空に真赤な夕陽が沈んでゆくとき、私にとって、東邦中高は、いついつまでも輝く茜雲なのです。私はあと二年で八十歳、私の東邦生活は遠い遠い夢の中の出来事になってしまいました。第一回生から私の退職まで一緒に楽しく過した卒業生は約一万人です。この間にいろいろのことがありました。

初代の額田校長から白鳥・有坂・下村・鳥袋・相川と歴代の大校長に師事した私は東邦で最高の幸福者と自負しているのです。そして東邦は私にとっても楽しい楽しい職場でした。生徒はみんなみんな明るく朗らかで優秀でした。卒業後は全国の各界で活躍しています。一回生には私のかかりつけ医もいます。

或日のことです。八千代台駅近くの小さな調剤薬局の窓口で医師の処方箋を差し出したとき、私の氏名をじっと見て、びっくりした表情の美しい若い女薬剤師が大声で「先生」と云うのです。びっくりしたのは寧ろ私の方でした。退職後は



一切タダの人になりきり、老人会でカラオケを  
楽しむボケ老人で、先生と云われることを極力  
嫌っていた私だったので。まじまじと彼女の  
顔を見つめていた中にあどけない幼い中一の面  
影が浮かんできました。彼女は再度叫びました。  
「先生、タンポポのMです!!」

それは私が教頭だったころ、中一の理科Ⅱの  
楽しい脱線授業でのタンポポ研究グループの一  
員、三十四期のMさんでした。この薬局の責任  
者S君も東邦十三期の卒業生とのこと、このよ  
うな卒業生との楽しく嬉しいめぐりあいは、あ  
ちこちで展開されました。二期生の担任だった  
私は、眼をとじると、一期、二期、三期生の元  
気な姿が今でも浮かんでくるのです。

東邦は夢の殿堂、年老いた私にとって心の中  
に輝く希望の源泉です。

東邦中高の今後益々のご発展と卒業生のご活  
躍を祈りながら、創立五十周年、心からおめで  
たと申し上げます。

## 建学の精神「自然・生命・人間」

### 復刻本発刊にあたって

同窓会副会長 小沢重博(十六期)

私の数少ない蔵書の中に額田晋先生著作の  
「自然・生命・人間」があります。中学入学時で  
あったか高校入学時であったか定かではありませんが、  
せんが、学校から戴いたものであることには間違  
いないでしょう。三十年以上に渡り我が家の  
書棚に存在し、当初一読したと思いますが現在の  
ような深い感動の記憶はありませんでした。

「東邦に入りたい、共に校歌を歌いたい」と長  
男が平成元年度の御受験を突破し、入学式を前  
にした春休み、書棚に忘れられていた「自然・

生命・人間」が目にとまり、懐かしさも手伝い  
何気なく軽い気持ちで読んでみました。

額田晋先生の自然観・生命観・人間観が素晴  
らしい感性で区分けされ、その根底には何もの  
にも勝れる「愛」「自然」に対する「謙虚」、生命  
を授けられた「感謝」等を感じ、教え育むとい  
う真の教育観が穏やかに淡々と、それでいて力  
強く書かれており、読むうちに大きな感動が心  
に響いてきたのです。

「無限なる天体のうちに 雄大なる自然のう  
ちに そして美しい青空のもとに われわれは  
生活しているのである。」

医学・理学の博士号を取得された科学者であ  
る先生の、なんと大きく、美しく、素晴らしい  
文章であろう。

「哲学の心の追求、宗教の慈愛・博愛にも勝る  
とも劣ることのない「愛」。私は感動を覚え、  
何度も熟読しました。

入学式当日、息子が戴いた記念品や資料の中  
に、建学の精神「自然・生命・人間」の本は無  
く、当時新任の押田教頭先生に御尋ねしたところ、  
随分以前から配布してないと聞かされました。

その後、習志会の役員を押しつけられたこと  
から、就任直後の故細野学校長と面談の機会を  
得て「自然・生命・人間」について共鳴し、感  
動を語り合いました。

建学の精神として、学校紹介や入試のパンフ  
レット、校内のホールや校庭の石碑等に必ず掲  
げられている「自然・生命・人間」。

内容も知らされず御題目だけの存在。細野学  
校長も大変遺憾に感じておられ、生徒だけでは  
なく、むしろ教職員に配布し、あらためて東邦  
教育の根幹にしたいと申され「自然・生命・人  
間」復刻を強く望んでおられました。が、細野学  
校長は志半ばにして他界されました。

習志会を終えた直後の平成九年六月、私は同  
窓会副会長に選出され、母校支援に向けて同窓

会活動をする際に、故細野学校長の深い御意志  
でもあった「自然・生命・人間」復刻を理事会  
に提案し絶大な賛同を得、同窓会総会でも会員  
の皆様の御理解をいただき、復刻本発刊は同窓  
会活動の大きな柱となりました。

同窓会が復刻本発刊に着手して五年、その間、  
様々なことがありましたが、この度、額田先生  
の御遺族の御理解と、学校法人本部をはじめ関  
係各位の御協力の得て、復刻が遂に現実となり  
ました。

思い起こせば「自然・生命・人間」と再会し、  
あの感動から十余年。志半ばにして他界された  
細野学校長の深い御意志も報われ、感無量です。  
これを機に、我が母校の崇高な建学の精神を  
御一読下さい。そして東邦を、地域社会を、日  
本を、世界を、「自然・生命・人間」の雄大な人  
生観、世界観から今一度、「愛」を持ち、「謙  
虚」にそれぞれの立場で見直して見ようではあり  
ませんか。それでこそ我々が東邦で学んだ証  
であり、誇りであると思います。又、東邦に於  
いて教職を努められている職員の皆様には、熟  
読理解され、次世代を背負う青年男女に誇りと  
情熱、愛と謙虚を兼ね備えた東邦の精神で額田  
先生の世界観・人生観を伝え育んでいただき  
たい、と強く切望致しております。

最後に額田晋先生「自然・生命・人間」の最  
終章、巻末の文章から

「明日の社会は今日の青年によって形づくら  
れるのである。明日のよりよい社会は今日の青  
年男女の正しい世界観から生まれるものである。  
わたくしは、どこまでも若い人たちと志を同じ  
うして、より良い次の時代の創造へ、より良い  
次の社会の建設へと努力をつづけていきたいと  
切望している。(完)」

# 同窓生のページ

## 高校時代の思い出と近況報告

五期生 橋本吉右

創立五十周年を迎え、心よりお慶び申し上げますと共に更なる発展を期待しております。

さて、我々の高校時代は、戦後十一年、街頭の白黒テレビで、力道山対シャープ兄弟のプロレスに熱中していた時代も過ぎ、政治・経済両面に復興著しい一九五六年からの三年間でした。時は、正に電化元年と呼ばれ、三種の神器と言われた洗濯機・掃除機・冷蔵庫で空前のブームになり、俗に言う神武景気の真直中であつた。

学校は、自然豊かな習志野原の一角に位置し、兵舎を改造した教室からは、時として自衛隊の落下傘降下訓練が見られることもありました。

個性的な教師陣は、老練の達人ばかりで、受験勉強の指導より人間形成に情熱を注いでくれました。中でも、スキンヘッドで、いつも吊りズボンを愛用されていた二人の先生の厳格さと優しさは、忘れることができません。

約一六〇名(四クラス)の同期生は、新しいクラブを創設したり、就職と進学の狭間で悩んだり、草創期の高校生活を充分楽しみました。有志十名で創部した野球部は、開校一年目の市立習志野高校(後年王国優勝校となった)に勝つた程度でしたが、汗臭い部屋と一人でも欠けた

ら試合に行けなくなるという妙な連帯感のあった仲間達の思い出は、高校時代の財産の一つでもある。我々世代は、「金の玉子」と言われたこともあるという意味で、「金の玉子」と言われたこともあるように、産業界の需要は活発で、卒業生の三分二は実業界へ進出し、残りが進学したように記憶している。私自身は、新しい出会いに夢をふくらませ明治大学政経学部へ進学することになった。

卒業後四十数年が過ぎ、各方面で活躍した同期生諸氏も、美しい思い出と苦い経験の入り雑じった年月を胸に、二〇〇一年には、元気で還暦を迎えたことでしょう。五十歳を迎える母校より十歳年上の六十歳になり、多くの人は現役をリタイアして、第二の人生に踏み出したことと推察いたします。

そこで自分の近況を報告して文章を閉じることと致します。私は、二十一世紀を迎えると同時に後輩に道を譲り、実業界から完全に身を引きました。しかし、スポーツから引退することは出来ず、走友会に属し、生涯現役を旨とし各地のマラソン大会に出場しております。又、地元のマンドリンとギターの会で演奏を楽しむかたわら、バンドン地方で出会った民族楽器アンクルンの研究にも余念がありません。農繁期には、長野県の川中島合戦場近くで米作に精を出しています。都会と田舎暮らしがやっと板についてきた此の頃です。

同好の士は、ご一報あれ。自遊人として一緒に楽しもうではありませんか。

## 高校時代の思い出

七期生 田中暎子  
(旧姓 須藤)

高校時代の思い出東邦高校創立五十周年お目出とうございます。創立してまだ半世紀しか経っていないことにびっくりしています。関西に嫁いで早や三十年余り、折にふれ東邦高校のことを思い出す日があります。関西でも東邦高校を知っている方が以外と多いのにびっくりします。それだけに良い学校だったなあと思えます。京成電車の大久保駅で降り、学校迄歩いて通った道、廻りのお店、学校の正門を入ると右側に学生寮、左側に食堂、しばらく歩いていくと右側に校舎が有り、正面には運動場、そして左側に部屋、当時の風景が思い出されます。広々とした学校でした、卒業して四十年余り、今はすっかり変わっているでしょう。当時は珍しかった階段教室、九十分授業、慣れるまでとても長く感じた九十分でした、化学の授業が他校より多かつたように記憶しています。入学式の日には型は一緒にサイズが違う革靴をお友達に履いて帰られ困ったことや、通学の途中で定期を拾ってくれた先輩の男子学生にほのかな恋心を抱いたことも懐かしい思い出です。学生寮に入っているお友達を羨ましいと思ったりしました。東邦大学の付属ということで地方から来られている方も多く医学部や薬学部に進んでいかれる方は真似面に勉強している方が多かつた様に思います。先生やお友達との楽しい思い出は尽きない程あります。今、思い出しても良い学



校だったと思います。高校時代のお友達とは今でも適宜に会います。関西に来て頂いたり、同窓会で会ったり、その時が一番、青春時代に戻れる時です。東邦高校の卒業生は日本全国いや海外にもいらつしやると思っています。だれもが誇りに思っていることでしょう。これからも素晴らしい学校であることを願っております。創立五十周年心よりお祝い申し上げます。

## 「迷想」

十一期生 穴 倉 勲

母校が「創立五十周年」を迎える事は、誠に喜ばしく、心よりお祝いを申し上げます。今日、ここまで母校が発展するとは、感慨無量です。関係者、皆様方のためまぬ努力の結果であろうと思えます。

さてここで私の今日までを少し振り返ってみる事とします。昭和三十七年に入學、いわゆる春四月、桜の咲く頃、いまはなつかしい木造の校舎に。

この頃より社会情勢は、高度経済成長の時代となり、新幹線が走り、又高速道路が開通し始め、そして、アジアで最初の「東京オリンピック」が開催された時期でした。私は運よく「女子バレー」と「体操」を観る事が出来、非常にうれしかった事を思い出します。その後も社会情勢はたいへん景気よく、いろいろな「博覧会」が行なわれ、人々がそれらの沢山の催しを楽しみに参加した時期でした。特に思い出するのは「大阪万博」です。当時、写真はほとんどが「白黒」の時代でしたが「万博」のおかげで「カラー」化となり写真関係の会社にいた私は、おどろきの連続でした。というのは、業界はもち

ろん、社の業績も、めざましい勢いで伸長したからです。ほんとうによい時代でした。その後「オイルショック」は、あるものの、「列島改造論」が出たりして、「景気」そのものは順調、又「東京デイズニールランド」の開園などもあり益々写真業界は、発展していました。

この頃、私は「写真関係」より屋外広告、いわゆる「看板業界」に身を転じます。そしてこの頃より「コンビニ」が急速に増加し始めたのです。又同時に、「パチンコ」業界も多店舗化となり、各地に出店したのです。おかげで、またまた「業界」が多忙極める時期なり、会社は毎年毎年、二ケタの伸びを見せました。なんとという「ツキ」の良い時なのか「運」の良い時だったのか？ とにかく仕事に恵まれていました。恵まれたと云えば「社内行事」も。これはかなり沢山、それも「デラックス」に。国内旅行は三泊ぐらい。そして一年おきに、海外旅行という様になりました。現在の状況下ではとてもでも、「エツ、ウソ」と言われるほどですが。そして平成に入ると少しずつ「景気」はガタつき始め、ついに平成四年～五年にかけ「バブル」がはじけ出し今日の様な状況下になったわけです。ちょうど、そんな平成四年に、社をやめて「看板屋」として独立して今日に至っております。

ふり返り「よきサラリーマン」の時期を過ごせとても恵まれていたと思えます。すでに何人かの友人は、急ぎ旅立った者もおりますが、私はゆっくり旅立つつもり、孫の結婚式の一つぐらい見てからと。

母校五十周年にあたり私の迷想を述べて見ました。母校の今後のますますの発展と各位のご健勝を祈ります。

## 同期会を終えて

三十八期生 齊 藤 崇

我々第三十八期生は、この三月で高校卒業十周年を迎えた。それを記念して、去る三月九日（土）、母校である東邦大学付属東邦高等学校内の礼法舎にて、同期会を開催した。準備が遅れてしまい、直前の案内であったにも関わらず、約三十名の同期生が集まった。また、我々が第三学年次にお世話になった担任・副担任の先生方にもお声をお掛けしたところ、学年末試験期間中という忙しい中、わざわざ時間を割いて、礼法舎まで足を運んで下さった。

同期会は、先生方も含め、一人一人の自己紹介・近況報告という形で進んでいった。十年前、一緒に机を並べていた同期生たちは、今、それぞれ道を進んでいる。仕事で活躍している人や、子育てで忙しい毎日を送っている人、また高校の教師になった人もいる。ふだんは、全く違った生活を送っている我々だが、この日ばかりは、高校生の頃に戻ったようになって、いろいろな話に花が咲いた。また、先生方を交えての懐かしい話に、楽しいひとときを過ごすことができた。

今回の会合に参加した同期生の中には、卒業して初めて、つまり十年ぶりに再会する仲間も数多くいる。それだけの長い年月が経っているにも関わらず、高校生の頃のように楽しい雰囲気の話ができるのは、非常に嬉しいことだと私は思う。東邦高校で過ごす中で、こうした仲間たちと出会えたことは、私だけでなく、他の同期生にとっても、とても素晴らしいことである。今回の会合を機に、同期生たちの小さな集まり

が催される動きがあるようだ。こうして同期のつながりがさらに強まっていくことは、とても嬉しく、また楽しみなことであると思う。

最後に、学校で同期会を開催するにあたり、たくさんの先生方にお世話になった。特に、施設使用申請の際には、同窓会の御喜先生、三年次の担任であった高品先生、矢吹先生に大変お世話になった。また、礼法舎を快くお貸し下さった川嶋先生にも、大変お世話になった。この場を借りて、深く感謝の意を表したい。また、同期会に足を運んで下さった諸先生方、そして同期の仲間たちにもお礼申し上げます。

## 北の国から

四十六期生 草原紀子

私は現在、帯広畜産大学・畜産学部獣医学科の三年に所属しています。炭疽菌や狂牛病の騒ぎの折にはマスクに登場した教授もいるので、ご存知の方もいるかも知れません。住まいから大学までは徒歩で二十分弱ですが、冬は車で通学しています。真冬の屋外は冷凍庫の中よりも寒いので肌が痛くなりますし、雪が降ると歩き難いものですから。大学には学生用の駐車場が幾つもあるので、大半の学生が車で来ても大丈夫なのです。時には車を使って大学の敷地内を移動することもあります。半端じゃないほど大学が広い為、目的地が1km以上離れていることもあり、歩いていたのでは次の授業に間に合いません……。こんな具合に雄大過ぎて不便な面もありますが、大学を含めた郊外の景色は牧歌的で気に入っていますし、時間がある時はドライブをして楽しんでいきます。

勉強の方は、二年から専門科目が増え、各期

末の試験は質・量ともに大変です。動物を扱う実習も増えました。普段の実習は小動物を対象とした実験が主ですが、昨年には畜産大学の名に相応しく、大学の敷地内にある農場での搾乳実習や牛・馬の解剖実習がありました。解剖では一頭の動物を約二十名の学生で分担しながら二日に分けて行いましたが、一日七時間近くかかり大変なものでした。実習を通じて、獣医を目指すには動物が好きであるだけでなく、実習で扱う動物の死をも正面から受け止められなくてはならないということも感じました。今年からは更に、本物の細菌を扱う実習もあります。一応、実験室内感染が起きないように処理済みとはいえ、炭疽菌も扱う予定になっており、少々怖いものがあります……。

獣医学科は六年制ですが、来年、つまり四年からは研究室に入ることになっており、最近は進路について友人と話す機会も多くなりました。まだ完全に決めた訳ではありませんが、一応は希望する研究室を見つけました。将来自分が就きたい職業分野を含めて熟慮し、悔いのない進路を選びたいと思っています。

## 若さの秘訣

二十期生 小林照彦

若葉が風にゆれうごく季節となりました。東邦高校卒業生の皆様にいたっては、いかがお過ごしですか？ 僕は五月の連休のんびりした時の中、と言っても一日しか休みがありませんが、この原稿を書いています。実は、ある非常に我侷な同級生から突然に「八〇〇字位で原稿を書いてくれないか？」急に言われて直ぐに書ける物ではない。テーマを考えているうちに詰まっ

て来た。この非常にわがままな同級生とは、卒業してからもはや三十数年もの月日が経っているが、相変わらず変わり者である。二十期前後の方なら誰でも知っている牧である。本当に変なやつである。今は同窓会の理事をやっているらしいがわかったものではない。この原稿が会報に載ったのなら信じてもいいが……

三十数年、同級生はすっかりオヤジ化している。早い人は孫でも居そうな感じもする。それが若さを保つのに必死である。女史はエステに通い、氏はスポーツジムに通い、なかなか大変。しかし精神的な事でも若さを保てるのではないだろうか？ 私は自負する訳ではないが、実年齢よりは少し若く見られる。これはただ単に童顔なだけではないと思う。

私はモータースポーツが好きで、年に何回でもないがツーリングに参加する。外にも趣味は沢山持っているが、メンバーがこれまた若い上に皆さんタフ！ 一日ついて行くのがやっとなし。しかしこうしてオモチャの様な車と遊んで居る時、自分自身が若返る様な気持ちになる。我々の年になるとだんだんに趣味とかがなくなってくる。本当はなくなるのではなく、面倒になるのだと思う。最近忙しくて時間が無いとか、やりたい事は頭の中で色々膨らんで来るのだが、どうしても行動に出し切れない。ここにオヤジ化する原因があるのだと思うがいかがなものか？

ある同級生は、ラジコン模型で遊び、またある人はいまだに小うるさいハードロックを聞き酒を飲んで居る。それぞれがそれぞれの楽しみ方を持っている。確かに姿はどれもこれもオヤジ。だけど一つだけ違うのはそれぞれが持っている精神的若さ！ ここが違う。私の妻に言わせると、実は私も前者に負けない位のがままな人間らしい。自覚しているが、だが、

単に意地を張っているのではない。そこにこだわりを持つているからこそ、わがままになるのではないか。その、こだわりこそ若さの秘訣。この続きは、次回の同窓会で、皆さんとお話を致しましょう。それまでにこだわりを沢山持つて下さい。ご健闘を祈ります。そろそろ、子供も少しづつ自立し始めて行く歳であろう。これからの時間は皆さんの時間。こだわりを持つて、思いついたら直ぐ始めましょう。

### 創立五十周年を祝う!

### 真夏の夜の夢

五期生 永田 光 哉

数年前、同窓会が揺らいでいた頃の総会に久しぶりに顔を出した。当時の面影はすっかりなくなっていたが、気品を漂わせた母校の門をくぐりながら、己が人生の旅路を振り返り四十四年前の昔を懐かしく思い起こした。思えば遠くへ来たもんだ……。

楽しみにしていた総会後の懇親会は、華やかに賑わっていた。しかし、沢山の同窓生が林立する中で、私は、言いようのない孤独感に襲われた。仲間がいない? 見覚えのある顔がない、五期生が誰もいないのだ!? グラスを片手に会場の中をさ迷いながら同期の顔を捜した。一番近いのが七期生の鮎川会長だった。二十四期だ、三十六期だと言われ「私は……」と言葉を呑みこんでしまった。やたらと寂しかった。そしてようやく、お話の通じる化学の相川先生にお会いして私の孤独感は払拭された。その後、相川先生と話が盛り上がったのは勿論である。五期生よ、同窓会に集まろう!!

それからどれ位経つただろうか。ある夏の夜、私は夢を見た。観光客で混雑している土産物屋

の店先の様だ。仲間数人とワイワイやっている時、その店のおばさんに電話がはいっていると呼ばれた。何でこんなところで……といぶかしげに受話器を取ると「もしもし、永田さんですか、私、郵政大臣の野田でございます。実はあなたに、経済企画庁長官を引き受けていたと言いたいの言う話があるのでお持ちください」と言う女性の声。今度は「もしもし、郵政大臣の丹羽佑哉でございます。実は、中曽根さんが、経済企画庁長官は是非あなたにと、推挙されたんです……ですから……すぐに……国会……」聞き取れない。もしもし丹羽さん、もう少し大きな声で話していただけませんか……と私。「中曽根さんがですね、あなたを……永田町へ……」??……何が分かるから……ない、この俺に経済企画庁長官!?……まさに青天の霹靂だ!……「経済企画庁長官? 経済企画庁長官!?」とパニック状態の私に仲間たちは「なんだ、何だ、どうしたんだ?」と近寄ってきた。この俺に経済企画庁長官をやらせてさ……中曽根さんが推してくれてるって言うてるんだ。……「そんな馬鹿な、何でお前に?」……分からない。だけど、とにかく行かなくっちゃ、永田町へ……でもどうしてと自分に問いかけながらも、国会へ行ったらどんな挨拶をしようかなどとワクワクしている。

内心やる気であるのだ。……そういえば、さつき新幹線の中で中曽根さんとかなり長い時間いろいろ話していたけど、あの時のことで推してくれたのかなあ……きつとそうだッ! よーしッ、これで俺にもようやく運が廻ってきたぞ、俺はやるぞォー……という大声で目が覚めた。……暫く放心状態……経済企画庁長官が頭の中でぐるぐる廻っている……夢と言うのは実に面白い!

現在私は、印刷業を営んでいるが零細企業にとつて厳しい時代が続いている。「もしこの俺が……」なんて毛先ほども考えたことはないが、夢の中とはいえ、中曽根さんに名指しされたとならば考えねばならぬかな……? それともどなたか、この夢の解き明かしをしてくれる人がいたら是非とも伺いたいと思う。

四十四年前、母校の門を出るときはどんな夢を見ていたのだろうか。まさか、還暦を過ぎた自分の姿を想像したりしなかつたらう。おそらく、自分の将来は永遠に不滅だくらいに思っていたのだろう。

今の私は、仕事は勿論、ユネスコ活動やボランティア活動(朗読奉仕)、それに、花や野菜作りを毎日精を出している。自称四十八歳の外交家? である。

### 原稿募集

同窓会では、次回会報に記載する原稿募集しております。

・内容・近況等ご自由に  
・字数・一〇〇〇字程度

・送付先・習志野市泉町二一―三十七  
東邦大学付属東邦中高同窓会

「ならしの」原稿係

FAX 〇四七(四七二) 一一六〇

発行予定・平成十五年5月頃



# 学校の近況

## 一、在籍数(平成十四年五月現在)

《中 学》				
	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	158名	156名	144名	458名
女子	118名	119名	127名	364名
合計	276名	275名	271名	822名
学級数	6	6	6	27

《高 校》				
	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	225名	234名	178名	637名
女子	158名	165名	181名	504名
合計	383名	399名	359名	1141名
学級数	8	9	9	26

## 二、平成十四年度主な学校行事の日程

**体育祭(中学)** 六月二日(日)  
九時～一般公開する。

**(高校)** 六月六日(木)  
九時～一般公開する。

**文化祭「银杏祭」(中高合同)**  
九月二十八日(土)・九月二十九日(日)  
一般公開は土曜の午後(十二時三〇分)から

## 入学学力検査

前期……………一月下旬  
後期……………二月上旬  
高校……………二月上旬

\*入学学力検査の日程は後日確定します。

## 三、部活動の活躍

**中学校ハンドボール部**  
県総体 女子……………3位  
県新人戦 男子……………3位

**中学テニス部**  
県新人大会 男子……………団体戦準優勝  
女子……………個人戦ダブルス準優勝

**関東新人大会**  
男子……………団体ベスト8位

**中学校卓球部**  
市総体 男子……………シングル第3位  
県総体 男子……………シングル出場  
県新人戦 男子……………シングル出場  
市秋季大会 男子……………シングル優勝  
市冬季大会 男子……………ダブルス準優勝

**中学校陸上部**  
関東大会出場一年男子……………一〇〇メートル

**高校ハンドボール部**  
県新人戦大会・兼全国選抜大会予選  
男子……………ベスト8位  
女子……………2位

## 四、先生方の異動

県関東予選会 男子…2位で関東大会へ3回戦  
県全国総合体育大会県選考会 男子……………3位  
女子……………3位

全国選抜大会関東東地区予選 女子……………2回戦で敗退

高校サッカー部 県私立大会……………準優勝  
県新人大会……………ベスト32

平成十四年三月、高間平三先生(理科)がご定年で、羽豆拓夫先生(英語)がご家庭の事情で退職されました。

高間先生は、実に四十年間に渡って東邦の理科を支えてこられました。山とラグビーとお酒をこよなく愛し、熱血漢でロマンチスト。「髭の平三先生」として、大久保の街でも知られた東邦の名物先生でした。先生の姿が日常見られなくなることは寂しい限りですが、先生の教育への情熱は、多くの同窓会会員の心の中で生き続け、人生の支えとなっているに違いありません。

羽豆先生は、熱心な英語指導と温かいお人柄で生徒たちに慕われてきましたが、ご家庭の事情で故郷に戻られることになりました。四月一日付けで新潟県立新潟高等学校に赴任されました。新任で県トップ校に赴任という快挙は、私たち東邦関係者にとりて誇らしい限りです。稀代の英才を失うことは残念ですが、先生のますますの活躍をお祈りしたいと思います。

両先生には、ご無理をお願いし、同窓会会員へのメッセージを寄せていただきました。(文責 御喜)

## 退職にあたって

「思い出すままに」

高岡 平三

東京オリンピックの年に、いくつかの偶然と色々な方々のお世話で、東邦中等学校に就職することになりました。新任の同輩には押田さん、三住さん、先輩の先生方には石田先生（故人）、松平先生と一緒に就任したと記憶しています。

当時の校舎は習志野騎兵隊・戦車隊等の陸軍兵舎の払い下げでした。馬小屋の改造で床はプロポヨと揺れる所もあり、今の生徒さんには想像もできないことでしょう。一番面倒だったことは、雨の日には傘を差して教室やトイレに行かなければならなかったことですが、今では懐かしい思い出の一つです。

私が就職した頃は有坂一世（四代目）時代で、体が大きく、丸坊主で、いつも学生服を着用しており、生徒間ではタコ（入道の略でしょうネ）と渾名されておりました。生徒指導の大変厳しい方でしたが、東邦の基盤を築かれた先生でした。私は反発をおぼえておりましたが、今思えば当時としては止むを得なかったのかなあ：と、一部認める気持ちになっております。今の東邦は男女共学ですが、あの頃は男女別学で男子部、女子部に分かれておりました。男子生徒は丸刈りでしたが、ストライキで長髪が認められました。有坂校長は時代の流れを感じられ退任（正式理由は高齢）、後に下村弘毅先生（前習志野市教育長）が就任さ

れました。（中学校は相川校長時代まで丸刈りが続く。）

就職した頃の私は、中学・高校・大学受験の補習授業と週に二十四時間を持ち、ラグビー部と山岳部（廃部）の顧問をやっておりました。毎日、泥まみれになりながらグラウンドを走り回ったり、月一回の定例山行を共にしました。夏の九十九里浜の自炊合宿（ラグビー部）、穂高や尾瀬一周山行など苦しくも楽しい思い出です。「生徒と一緒に遊んでいよう。」と周りからの批判もありましたが、ラグビーと山は私の信念でした。今の教育に欠けているものが、山とラグビーにあると。老いた現在でもそう思っております。思い出は尽きませんが、最後に紙面をお借りしまして、私の教師としてのいたらなさをお詫び申し上げます。県下有数の進学校になったとうほうですが、ここまですになった卒業生の皆様の努力に敬意を表すと共に、東邦の今後の発展と故人となられた諸先生方のご冥福を祈りつつ筆を置きます。

## 十五年間ありがとうございました

羽豆 拓夫

平成十四年三月三十一日をもって、十五年間勤めてまいりました東邦大学付属東邦中等学校を退職させていただきました。

東邦で皆様と共に過ごしてきましたこの年月は、振り返ってみますと、大学を卒業したてで、未熟な社会人一年生からスタートした私にとりまして、人間として成長の期間を与えていただいた中身の濃い、充実した十五年間でありました。生徒、保護者、卒業生、同僚の皆様と色々な面で交流をさせていただき、喜怒哀楽を分かち合う時を持つこ

とができましたのは、私のこれからの人生においても貴重な財産になることと確信いたしております。

六十五歳の定年まで、勤めさせていただいたならば四十二年という期間を東邦で、仕事をさせていただくのが私学の学校に勤務する者の道であったのかもしれない。しかし、この度の決断につきましては、私自身が長男ということもあり、私の家庭の事情を優先させていただきました。任期をたくさん残し、故郷の新潟県の方へ帰らせてもらうことになりました。現役の生徒はもちろんのこと、多くの卒業生の皆様とお別れすること、慣れ親しんだ東邦学園を去ることはとてもさびしいことですが、ひとつの区切りをつけさせていただきます。

四月一日付けで私の方は、新潟県立新潟高等学校の新採用教師として勤務を開始いたしました。新潟高等学校は、明治二十五年、新潟県最初の中学校として創設され、昨年創立百年を迎えた伝統ある学校です。東邦の生徒と同じように、やる気に満ちた生徒がたくさん集まっている学校です。将来、私が東邦で教えた生徒と、これから教えることになる新潟高等学校の生徒が、大学で机を並べて勉強することになるのではないかと楽しみにしています。

私は、東邦中等学校を教員生活の故郷だと思っております。

故郷の思い出を大切にしつつ、これから新たな教員生活を前向きに歩んでいきます。長いようで短い十五年間でしたが本当にお世話になりました。ありがとうございます。

最後になりましたが、東邦中等学校の今後の更なるご発展を新潟からお祈りしています。

# 平成十四年度 入試結果

進路指導部長 松本 琢司

長引く不況と就職難を背景に、年々国公立大学志向や実学・資格取得志向が高まり、全国的には、従来から志望者の多かった医療・保健系のほかに、健康ブームも影響して栄養学科や、司法制度改革に伴う法科大学院設置構想の影響で法学部の人気が高まってきてい

ます。そのようななかで、本校では従来から多い医・歯・薬学部を志望する者のほかに、獣医を志す者が増えてきました。  
次に、今年度の大学入試結果を国公立大学・私立大学別に見てみましょう。まず、国公立大学ですが、合格者の合計は大学校を含める

大学名	合計	学部名	現役	既卒
明星大学	1	人 文	1	0
立教大学	29	文	2	1
		法	3	0
		経 済	7	4
		社 会	1	1
		コミュニティ福祉	1	1
早稲田大学	67	理	5	3
		第 一 文	2	1
		第 二 文	0	2
		法	6	4
		政治経済	3	6
		商	2	2
		社会科学	2	2
		教 育	4	6
		人間科学	0	2
理 工	10	13		
麻布大学	8	環境保健	1	0
神奈川大学	4	獣 医	2	5
		経 営	1	0
東京工芸大学	2	理	0	1
		工	2	0
愛知医科大学	1	芸 術	0	2
京都薬科大学	1	医	0	1
同志社大学	1	薬	0	1
同志社女子大学	1	文	1	0
立命館大学	16	生活科学	1	0
		文	0	1
		政策科学	2	0
		経 済	1	0
		経 営	1	0
		産業社会	1	0
関西大学	1	国際関係	1	0
		理 工	2	7
近畿大学	1	理 工	0	1
関西学院大学	1	総 合 政 策	1	0
吉備国際大学	1	保 健 科 学	1	0
私立大学合計	714		389	325

【文部科学省管轄外の大学校等】

大学名	合計	学部名	現役	既卒
防衛医科大学校	1		0	1
防衛大学校	2	人文社会学専攻	0	1
		理工学専攻	0	1
大学校合計	3		0	3

【短期大学】

短期大学名	合計	学部名	現役	既卒
千葉県立衛生短期大学	1		1	0
順天堂医療短期大学	1		1	0
日本大学短期大学	1		1	0
短期大学合計	3		3	0

【専修・各種・その他】

学校名	合計	学部名	現役	既卒
東京医科大学	1		1	0
防衛医科大学	1		0	1
慈恵柏看護専門学校	1		1	0
千葉県立野田看護専門学校	1		1	0
東京デザイン専門学校	1		1	0
東京コミュニケーションズ専門学校	1		1	0
専修・各種・その他合計	6		5	1

と一三〇名で、昨年の一三二名とほぼ同数で、現役だけをとってみても六四名と高い実績を維持しました。東京大学については、四名と例年よりやや少ない合格者数でしたが、京都大学に過去最多と同数の五名の合格者を出し、東大・京大を合わせた数は例年同様でした。その他に久々に東京工業大学に二桁の合格者を出しました。国公立大学医学部は現浪合わせて二二名（現役のみは七名）、国公立大学医・歯・薬学部は三〇名と例年同様多くの合格者を出しました。私立大学の方は、昨年は不況の影響で受験校数が減少したことと、特に現役生の国公立志向の強まりによって、合格者数が減少しましたが、今年は一昨年までの水準に戻りました。東邦大学には推薦で医学部に九名・薬学部には十四名の合格者を出しました。いわゆる早慶上智理科大の合格者数も合計二六五名と昨年よりも百名ほど多く、一昨年までの実績と並ぶ実績を上げました。そのなかでも特に、東京理科大学については、数年ぶりに三桁の合格者を出しました。

今年の現役生の進学率は、五六%でした。合格先がありながら進学しなかった二〇名以上の者も含めて来春を期して浪人している者も、今年の高校三年生も例年以上の成果を上げてくれるものと期待しています。

最後になりましたが、近年高校卒業後かなり経った方のなかにも、大学や専門学校に再度入学するために、調査書などの書類を取りに母校にいらっしゃる方も増えてきています。そのような折には、どうぞ遠慮なく進路指導室にお立ち寄りください。



平成14年度入試 大学等合格者数

【国公立大学】

Table of national/public university admissions. Columns: University Name, Total, Faculty, Current, Graduated. Includes entries like 帯広畜産大学, 北海道大学, 弘前大学, etc.

Table of national/public university admissions (continued). Columns: University Name, Total, Faculty, Current, Graduated. Includes entries like 長崎大学, 宮崎医科大学, 鹿児島大学, etc.

【私立大学】

Table of private university admissions. Columns: University Name, Total, Faculty, Current, Graduated. Includes entries like 北海道医療大学, 北海道薬科大学, 成蹊大学, etc.

Table of private university admissions (continued). Columns: University Name, Total, Faculty, Current, Graduated. Includes entries like 慶應義塾大学, 恵泉女学園大学, 工学院大学, etc.

Table of private university admissions (continued). Columns: University Name, Total, Faculty, Current, Graduated. Includes entries like 東京農業大学, 東京薬科大学, 東京理科大学, etc.

# 新入会員を迎えて

同窓会は、この三月、三五六名の新しい仲間を迎えました。  
新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

## 母

校五十周年に向けて私たち第四十八期卒業生三五六名は平成十四年三月二日に無事卒業式を終え、この度同窓会の新メンバーとして加えていただくこととなりました。諸先輩方々の様に各方面で活躍できる人間になれる様に努力していきたいと思っています。よろしく願います。

東邦中学に入学して、電車通学、部活、勉強、行事、何もかもが新しく、楽しかったあの頃から

あつという間に六年が過ぎ去っていきました。最初は広いキャンパスで迷子になったりもしたけれど、今では、かなりの東邦通。また、人生の三分の一を過ごした大久保駅周辺の地理もぼつちりです。

私にとって東邦は、毎日が充実していて、居心地がよい場所でした。晴れの日も、雨の日も、風の日も、台風の日も、毎日、好きだから学校に通うことができたのだと思います。その結果として、六カ年皆勤賞をいただいたいちゃいました。そんな私の進学先も、やっぱり東邦！ 東邦大学です。大久保に通うこと十年間、めざすは東邦十カ年皆勤となるのでしょうか？

同窓会事務局より  
事務局担当理事 御喜 和  
18期生母校教員

(1) パート事務員の方の同窓会事務室での執務時間  
土曜日 9:30～14:30  
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします  
直通電話 047-472-1160  
\*FAXの番号は電話番号と同じです

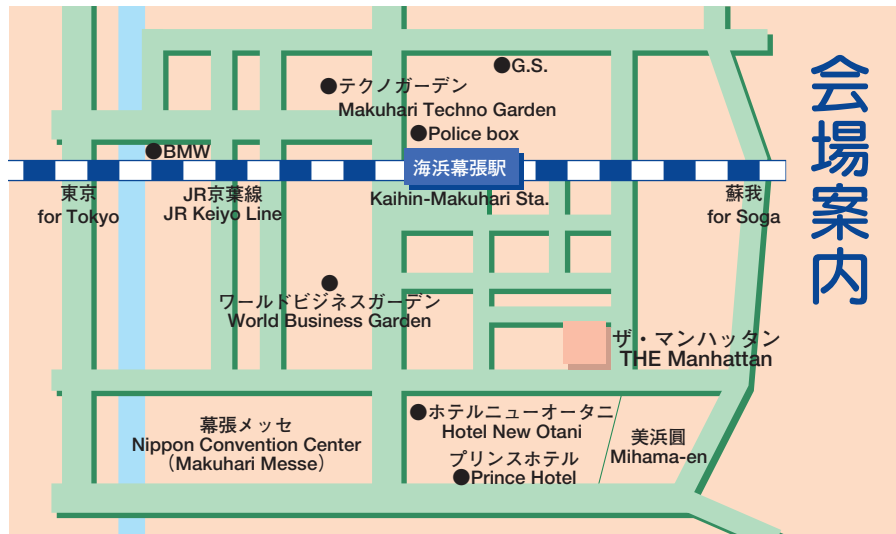
(2) 緊急の連絡に関して  
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません  
緊急のお問い合わせは学校代表  
047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください

(3) ホームページ等に関して  
Url <http://www.dosokai.org>  
E-mail [toho@dosokai.org](mailto:toho@dosokai.org)

これからも大好きな東邦で毎日を過ごせることを幸せに思います。東邦中・高で大きくなつたように、これから過ごす東邦大でも夢の実現に向かって日々、成長できたらいいなと思います。大学で、東京ほか大都市に進出する友達が多い中、相変わらず、習志野市大久保という田舎(?)にこもつたままいる私ですが、みんな、これからもよろしくね！

金子 亜矢 (第四十八期)

## 会場案内



## 編集後記

高校創立五十周年の節目ということで、会報のグレイドアップに努めました。ご協力下さいました方々に深く感謝申し上げます。  
(会報ならしの編集委員会)